

第三期「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」第2回会合・「議会評価モデル構築PT」第6回会合（合同開催）

地方議会改革プロジェクト第2回合同会合 報告書

日時 2020年2月7日（金）13時30分～

場所 日本生産性本部・経営アカデミー（東京・丸の内）

報告者 林 晴信

次第

13 : 30 ■開会

■基調講話「地方議会評価モデルの意義と課題」

江藤俊昭・山梨学院大学教授

13 : 50 ■議会評価試行結果報告

会津若松市議会・飯田市議会・甲府市議会・那覇市議会
船橋市議会

14 : 10 ■議会評価モデルについてのワークショップ

私のテーブルは、会津若松市議会 2 名・可児市議会 1 名・

あきるの市議会 1 名・飯田市議会 1 名と私

津軽石昭彦（関東学院大学法学部教授・ファシリテーター）

15 : 40 ■議会評価の普及方法についてのワークショップ

メンバーは同上

16 : 45 ■総括 江藤俊昭

17 : 30 ■意見交換会

所感

「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」には私は第1期からのメンバーであるが、第2期は選挙もあり全休、第3期はPT（プロジェクトチーム）には参加しておらず、しかも第1回会合は台風のため不参加だったので、今回は第3期初参加となった。

第1期はこじんまりとした研究会だったが、第3期には事務局入れて総勢35名という大所帯になっていた。

会津若松市議会、飯田市議会、可児市議会、大津市議会、那覇市議会の第1期メンバーに加え、あきるの市議会、犬山市議会、甲府市議会、船橋市議会、武蔵野市議会、陸前高田市議会の議員や事務局職員が集う会合となった。

第1期では政策サイクルの確立に向けたモデル試案まではできていたが、評価モデルについては「非常に難しい」との声もあり、未確立で終わっていた。それが第2期を経て第3期に、試行版とはいえリリースすることができるのは、驚きとともに喜ばしいことだと思う。

ただ、評価モデルの正式版は記入するのも詳細項目になることから、どの議会でも行えるような15項目にまとめた「要約版」もリリースすることになっている。まずはこの要約版を全ての地方議会で行えるような環境整備が必要という認識でも一致している。

資料として要約版を添付するので見てもらいたいと思う。ただし、まだ「試行段階」であるので、今後、修正があることを付記しておく。

なお、正式版で、会津若松市議会が行ったものを私は持っているので、興味のある方は申し出てもらいたいと思う。会津若松市議会の評価シートはさすがに綿密に書き込まれているが、私の目に一番ついたのは「今後の議会を取り巻く社会環境の変化」の項で、2040年へ向かって、「地域内分権の拡大」「市街地の学校の統廃合の是非」「市街化調整区域の見直し」「公共施設の複合化を含む再編」等が記載されており、西脇市と課題は同じだということだった。それらの諸課題に議会がどう取り組んでいけるかということだろう。

実は「議会評価モデル」の「評価」という言葉にはアレルギー反応もあるので、私自身は使わない方が導入は進むと思っている。例えば「セルフチェックシート(自己分析表)」にするとか。やはり多くの議会でこの要約版を使い分析してもらい、議員間で討議して、自分たちの立ち位置を確認するという作業が大事だと思うからである。入口での障害はなるべくないほうがいい。また要約版の内容も、自分たちの議会は何ができていて、何ができていないかという強み弱みを知るものでもあるので、まさに自己分析というに相応しい内容だとも思う。

本当のことをいえば、この自己分析、自己評価に第三者評価（外部評価）を加えると完璧だとは思いますが、費用等の問題もありハードルは高いように思う。

江藤俊昭教授の基調講演の中では、議会の政策法務の重要性が説かれた。要するに立法機関としての議会である。個人の一般質問においても、その論点について議員間で討議していく必要性も説かれた。個人や会派だけでなく、委員会代表質問も行うべきと説かれたが、果たして西脇市議会ですることができるかどうかは、現状を見る限り、はなはだ心許ない気はする。まずは委員会の活性化から始めたいと改めて思う次第である。

また江藤教授は本会議における現在の討論のあり方を疑問視されていた。「あれのどこが討論なの？反対賛成の意見陳述でしょ」と。江藤教授は、討論は3回くらいやって、本当の「議員間討論とすべきだ！」と仰っていた。なお、茨城県取手市議会では既に討論を3回まで可能としている。取手市議会基本条例には「第11条 議会は、議事機関として、その意思決定に当たり、議員間の公平で自由な議論を尽くすため、本会議における議員の討論については、賛否を明確にし、一議題につき3回まで行うことができることとする。」と明記してある。参考とすべきではないだろうか。

さて、今後、この議会評価システムが浸透し、それによって議会が活性化し、住民にとっても「成果」が見えてくるよう「議会改革第2ステージ」が進展することを期待するとともに、西脇市議会でも積極的に取り組んでいきたいと思う。

※議会改革第2ステージとは？

議会の機能強化等形式を整えるのが第1ステージ。その機能を使って「住民のためになる成果」を出していくのが第2ステージ。